



ニッポン名城 技めぐり

城から学べる
“Construction”



Vol. 12

豊臣政権時代 徳川政権時代(慶長年間) 徳川政権時代(元和年間以降) 幕末*

江戸時代末期、外国船の来航を機に、海外からの脅威に備えるための城や砲台を建設

品川台場

| | |
|------|--|
| 所在地 | 東京都港区 |
| 築城年 | 1853(嘉永6)年 |
| 築城主 | 江戸幕府 |
| 保存状態 | 第一から第三、第五、第六台場が海上に築かれたが、昭和初期までにほとんどが埋め立て・撤去され、「台場公園」となっている第三台場と第六台場(無人島)だけが現存する。 |

ペリー艦隊の再来に備え、“超短工期”で建造した砲台

1853年、浦賀にペリーが来航し、江戸に向けて砲撃し開国を迫った。ペリーは翌年の再訪を告げて帰国したため、外圧の脅威を感じた幕府が砲台建設を計画。老中首座・阿部正弘は、伊豆菰山代官で砲術を学んでいた江川英龍に普請を命じ、埋立から石垣・土塁の築造までわずか8カ月という短工期で5基の洋式砲台を完成させた。水深約3mの海を埋め立てて砲台を築造する際は、戦国時代から受け継がれた築城技術が用いられたが、結局この砲台から実際に砲撃を行う機会はなかった。



現在は公園となっている「第三台場」。護岸部の石垣やその上に盛られた土塁はそのまま残っている。江戸時代のすぐれた土木技術を現在に伝える、貴重な土木遺産である

1年間お送りしてきました「ニッポン名城 技めぐり」は、今号をもちまして最終回となります。「お城はどれも似た形をしている」と思われがちですが、築城した城主・時期・目的・場所が違えば城の形も様々で、非常にバリエーションに富んでいます。石垣の積み方や天守の形状など、細かいところまで着目するとより面白くなると思いますので、ぜひ全国のお城を訪ねてみてください。



三浦正幸教授…東京大学工学部建築学科卒。建築学者、工学博士、一級建築士。NHK大河ドラマの建築考証担当、城郭や社寺建築に関する著書多数。

続きは動画をチェック!



日本の建築史を専門とする広島大学名誉教授・三浦正幸教授の解説動画をこちらからご覧いただけます。